

第2編

総合的な学習の時間 スタートガイド



第1章 全体計画の作成 【解説P42～54】

第1節 全体計画の基本的な考え方

1. 全体計画の概要

全体計画とは、指導計画のうち、学校として、この時間の教育活動の基本的な在り方を、概括的・構造的に示すものである。

各学校において全体計画を作成することの意味は、学習指導要領に示される「総合的な学習の時間」の目標を、各学校の日々の実践として具体化するところにある。全体計画は、簡潔な表現で、見やすく、日々の実践において活用しやすいものを作成することが望まれる。

全体計画の作成に当たり、各学校は以下の7つの要素について考える必要がある。

- ①この時間を通してその実現を目指す「目標」
- ②「目標」を実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示した「育てようとする資質や能力及び態度」
- ③「目標」の実現にふさわしいと各学校が判断した学習課題等から成る「内容」。この「内容」を定めるに当たっては、学習対象や学習事項等によって、学習課題を具体的・分析的に示すことが考えられる。
- ④「内容」との関わりにおいて実際に生徒が行う「学習活動」。これは、実際の指導計画においては、生徒にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとまりとしての「単元」、さらにそれらを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。
- ⑤「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」
- ⑥「学習の評価」。これには、生徒の学習状況の評価、教師の学習指導の評価、①～⑤の適切さを吟味する指導計画の評価が含まれる。
- ⑦①～⑥の計画、実施を適切に推進するための「指導体制」

①～③を「必須の要件として記すもの」として、④～⑦は「基本的な内容や方針等を概括的に示すもの」として位置付けることが考えられる。そのほか、全体計画には、各学校が必要と考える事項を加えることができる。

また、①及び②については、学校を単位として設定するものとするが、③～⑦については、課程や学科ごとに設定することも考えられる。

以上を書き表した全体計画の様式の例が図1である。必要な要素が含まれていれば、その様式は、各学校で自由に定めることができる。

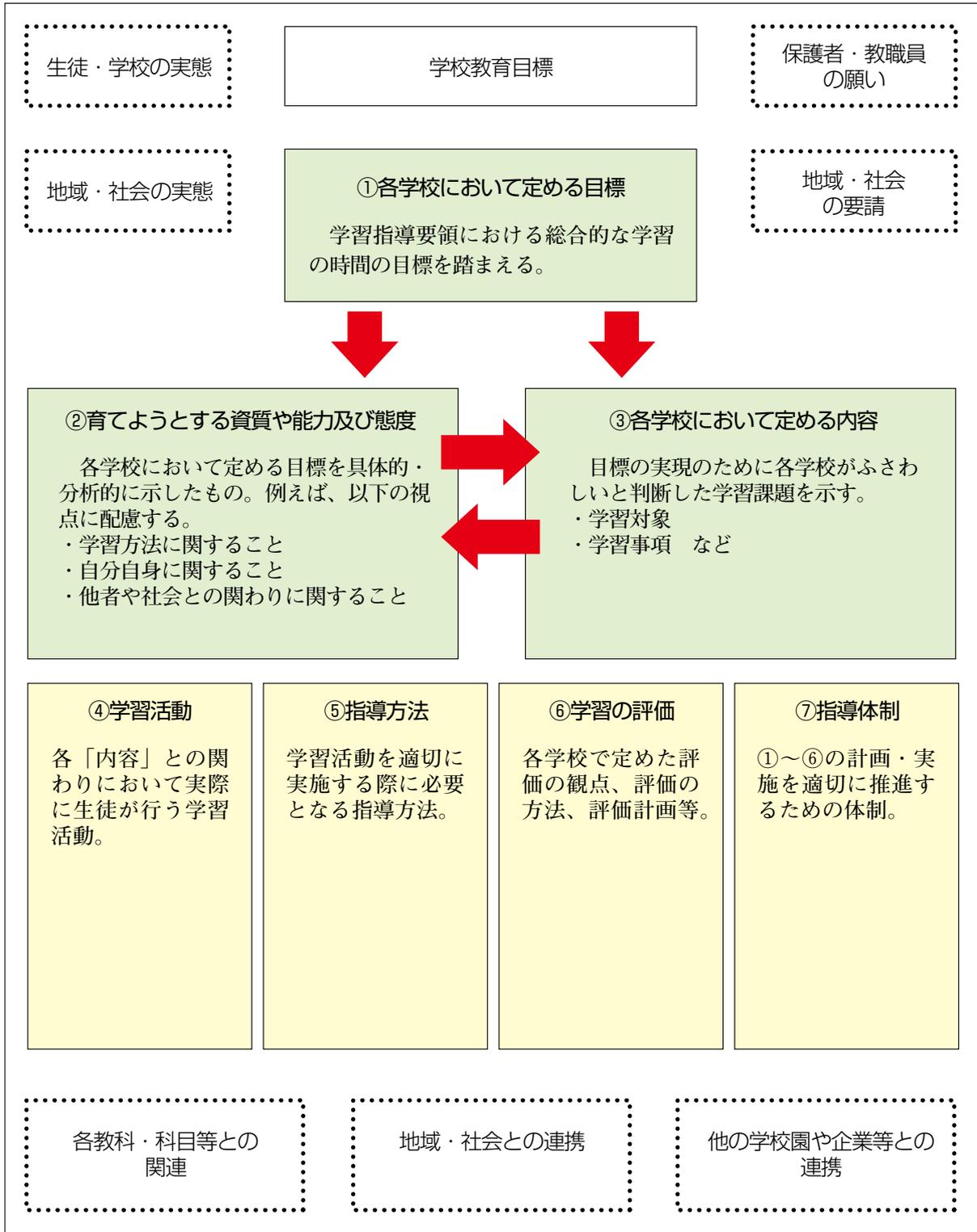


図1：総合的な学習の時間、全体計画の様式例

2. 全体計画の中心となる3要素

「各学校において定める目標」と、「育てようとする資質や能力及び態度」、「各学校において定める内容」は、全体計画における必須の要件となる3要素である。

〈全体計画の中心となる3要素〉

- ① 各学校において定める目標
- ② 育てようとする資質や能力及び態度
- ③ 各学校において定める内容

総合的な学習の時間においては、横断的・総合的な学習や探究的な学習としての単元を実現することが欠かせない。そのためには、目標と、目標を具体的・分析的に示した育てようとする資質や能力及び態度、目標の実現のためにふさわしいと判断した内容としての学習課題等を明らかにする必要がある。

これらの関係は、図2のように、表わすことができる。

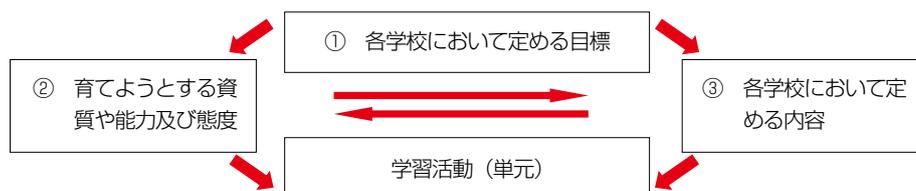


図2：全体計画の3要素と学習活動（単元）の関係

「各学校において定める目標」は、学習指導要領に示された「第1の目標」を踏まえて作成するものである。学校において定める目標を具体的・分析的に示したものが「育てようとする資質や能力及び態度」であり、目標の実現のために各学校がふさわしいと判断した学習課題等が「各学校において定める内容」である。両者は、生徒の実態やこれまでの実践の積み重ねなどに即して、相互に確認しながら作成する。学習活動（単元）は、資質・能力・態度及び内容の2つを踏まえ、その実現を目指して構成することとなる。

3. 3要素を明確にすることの価値

総合的な学習の時間では、全体計画を作成するにあたって2. に示した3つの要素がとりわけ重要である。それは、以下の理由による。

1つ目は、総合的な学習の時間では、実社会や実生活において生きて働く資質や能力及び態度の育成が期待されているからである。実際の生活にある問題を取り上げることで、生徒は課題を解決しようと真剣に取り組み、自らの能力を存分に発揮する。こうした一連の問題解決の中で育成される能力は、例えば課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力など、実社会において求められる能力である。目標を具体的・分析的に示した「育てようとする資質や能力及び態度」を明らかにすることは、実社会で活用することのできる先に述べたキー・コンピテンシーのような国際標準の学力を育成することにつながる。

2つ目は、総合的な学習の時間では、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代社会の課題を学ぶことが期待されているからである。これらの現代社会の課題は、近年の社会の変化に伴って新たに生じた、または深刻さを増してきた、あるいは切実に意識されるようになってきた課題であり、これからの社会を担う生徒にとっては避けて通ることのできない生活上の諸課題である。そのいずれもが、持続可能な社会の実現にかかわる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分のこととして受け止め、日々の生活の中で自己の在り方生き方との関わりで考え続け、よりよい

解決を目指して行動することが望まれる。こうした正解が一つに定まらない現代社会の課題などに対し、真剣に解決に向けて取り組むことこそが、これからの時代を生きる生徒に求められている。「内容」を明らかにすることは、こうした現代社会の課題などに向き合い、学び続ける生徒の育成につながる。

三つ目は、周囲の環境等との関係の中で、将来に向けていかに生きていくかを考えることが期待されているからである。問題の解決や探究活動では、生徒が自ら設定した学習課題や学習対象などを、自分と切り離して見たり扱ったりするのではなく、自分や自分の生活との関わりの中でとらえ、考えることになる。また、人や社会、自然を、別々の存在として認識するのではなく、それぞれがつながり合い関係し合うものとしてとらえ、認識しようとする。総合的な学習の時間では、それぞれの生徒が具体的で関係的な認識を、自ら構築していくことを期待している。

こうして総合的な学習の時間では、目標に示す「自己の在り方生き方を考えることができる」生徒の姿が具現されていくのである。

そのためにも、日常生活や社会との関わりを重視することが大切である。日常生活や社会との関わりを重視することで、自分とのつながりが明らかになり生徒の関心も高まりやすい。また、直接体験なども行いやすく、身体全体を使って、本気になって取り組む生徒の姿が生み出される。また、生徒にとっての学ぶ意義や目的を明確にすることが可能で、そのことが生徒の意欲的な学習の姿を生み出すことにもつながる。

このように、各学校においては、総合的な学習の時間の必要性や重要性を再確認し、目標及び内容を定めることが求められる。

第2節 全体計画作成の進め方

1. 各学校において定める目標

各学校における目標は、次のような点を基本に考えていくことができる。

(1) 目標の設定

各学校が目標を設定する際には、この時間の教育活動が創意工夫に満ちた、豊かなものになるよう第1の目標を構成する以下の5つの要素を含むよう配慮し、独自に目標を定める必要がある。

- ①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- ②自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- ③学び方やものの考え方を身に付けること
- ④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- ⑤自己の在り方生き方を考えることができるようにすること

(2) 目標の書き表し方の例

目標を書き表すには、5つの要素を含んでいればよく、例えば、次のような方法が考えられる。

「具体化」・・・学校の実態に応じて具体的に書き込む
「重点化」・・・5つの要素を示した上で、要素のいずれかを強調する
「付加」・・・別の要素を加える

○「具体化」の例

社会の在り方について扱った学習を想定している場合、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと」は、次のように「具体化」できる。

- ・現代社会の諸問題について自分たちの生活との関わりに留意しながら探究することを通して
 - ・グローバル社会に生きる人々の生活と地球環境についての探究的な学習を通して
- など

○「重点化」の例

「学び方やものの考え方を身に付けること」を「重点化」すると、次のようになる。

- ・仮説を立てて多角的に調査し、論理的、実証的に結論を導く考え方を身に付け
 - ・課題解決を目指して多様な事例を比較・分析したり、因果関係を推論したりして考え
- など

○「付加」の例

各学校において大切にしたいことで、この時間の趣旨や教育課程上の位置付けに照らして妥当な要素を「付加」することができる。例えば、次のようになる。

- ・地域社会の一員としての自覚を深め
 - ・持続可能な社会の形成に果たす役割を認識し
 - ・自他の思いや個々人の尊厳を重んじ
- など

目標を書き表す際には、例えば、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること」と「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること」をひとつの文にまとめ、「そこに潜む問題を主体的に発見し、多様な他者と協同して問題を解決・克服しようとする」等、複数の要素を組み合わせて、複合的に書き表すことができる。

なお、各学校において定める目標については、一文で表しても複数の文を列挙する形で表してもかまわない。適切な分量の中で、各学校が大切にしたいことを誰にでも分かりやすい表現で盛り込むように工夫することが重要である。

2. 育てようとする資質や能力及び態度

育てようとする資質や能力及び態度とは、各学校において定める目標を、実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示したものである。したがって、育てようとする資質や能力及び態度には、各学校の目標が実現された際に現れる望ましい生徒の成長の姿が示されることになる。各学校において定める目標と、育てようとする資質や能力及び態度の2つにより、この時間の教育活動を通して「どんな生徒を育てたいか」を明示することになる。

育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会との関わりに関すること等の視点に配慮する必要がある。

①学習方法に関すること

生徒が横断的・総合的な学習や探究的な学習を主体的、創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度に関する視点

②自分自身に関すること

生徒自身の生活や行為の在り方、あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度に関する視点

③他者や社会とのかかわりに関すること

他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度に関する視点

3つの視点は、これまで全国で取り組まれてきた実践事例を整理するなかで見出されてきたものである。また、この見出された視点は、OECDが示した主要能力（キー・コンピテンシー）に符合している。主要能力とは、先に述べたとおりOECDが、これからの「知識基盤社会」の時代を担う生徒に必要な能力として示したものである。

キー・コンピテンシーとは、具体的には、次の3つである。

①「社会・文化的、技術的ツールを、相互作用的に活用する力」

②「自律的に行動する能力」

③「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」

3つの視点のうち、学習方法に関することが主要能力の①、自分自身に関することが主要能力の②、他者や社会とのかかわりに関することが主要能力の③におよそ対応している。

各学校では、この3つの視点を踏まえ、育てようとする資質や能力及び態度を設定することが考えられる。その際に、例えば解説に示した育てようとする資質や能力及び態度の具体例（図3）を参考にすることができる。

育てようとする資質や能力及び態度の設定に際しては、全教職員がそれぞれの実践経験を生かし、記述内容等について生徒の実態を踏まえるとともに、項目数や記述量が日常的な使用にふさわしい分量とすることに配慮することが大切である。

視点		小学校	中学校	高等学校
学習方法に関すること	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 問題状況の中から課題を発見し、設定する 解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する 仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する 仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する
	収集分析	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情雑を収集し分析する 手段を選択し、情報を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて手段を選択し、情報を収集する 必要な情報を収集し、多角的に分析する 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する 必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・実的に分析する
	思考判断	<ul style="list-style-type: none"> 問題状況における事実や関係を把握し理解する 多様な情報の中にある特徴を見付ける 課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ 視点を定めて多様な情報を分析する 課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する 視点を定めて多様な情報から帰納的・演繹的に考察する 事象や事象間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える
	表現省察	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする など 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする など 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的、意図に応じて、手際よく論理的に表現する 学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとする など
自分自身に関すること	意思決定	<ul style="list-style-type: none"> 自らの行為について意思決定する 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの行為について責任をもって意思決定する 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの行為について当事者意識と責任感をもって意思決定する
	計画実行	<ul style="list-style-type: none"> 目標を設定し、課題の解決に向けて行動する 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に確実に行動する
	自己理解	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活の在り方を見直し、実践する 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践する
	将来展望	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来を考え、夢や希望をもつ など 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来を考え、夢や希望をもつ など 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来について具体的に考え、夢や希望をもつ など
他者や社会との関わりに関すること	他者理解	<ul style="list-style-type: none"> 異なる意見や他者の考えを受け入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする
	協同	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協同して課題を解決する 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する 	<ul style="list-style-type: none"> 互いを認め特徴を生かしあい、協同して課題を解決する
	共生	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する 	<ul style="list-style-type: none"> 環境の保全を考えて行動する 	<ul style="list-style-type: none"> 環境の保全について主体的、協同的に行動する
	社会参画	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向けて地域の活動に参加する など 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向けて社会活動に参画する など 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画する など

図3：育てようとする資質や能力及び態度の例

3. 各学校において定める内容

(1) 内容設定の要件と学習課題

総合的な学習の時間においては、内容として、目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題、自己の在り方生き方や進路に関わる課題などのことであり、内容が兼ね備えるべき要件としては、次の3つがある。

- ①横断的・総合的な学習としての性格をもつこと
- ②探究的に学習することがふさわしいこと
- ③学習や気づきが自己の在り方生き方を考えることに結び付いていくこと

内容を定めるに当たっては、生徒が探究的に関わりを深めていくひと・もの・ことなどの学習対象や、学習対象とのかかわりを通して学ぶことが期待される学習事項等によって、学習課題を具体的・分析的に示すことが考えられる。各学校においては、学習対象を明らかにするとともに、必要に応じて学習事項等を定めることが考えられる。

(2) 例示された学習課題の特質

学習課題とは、3つの要件を満たす教育的に価値ある課題を、各学校の判断で内容として設定したものであり、①国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、②生徒の興味・関心、進路等に応じて設定した課題、③自己の在り方生き方や進路にかかわる課題の3つが例示されている。

国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題とは、ここ数十年の間に社会の変化に伴って新たに生じた、またはその深刻さを増してきた、あるいは切実に意識されるようになってきた、現代社会における生活上の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現にかかわる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分のこととして受け止め、日々の生活の中で自己の在り方生き方との関わりで考え続け、よりよい解決を目指して行動することが望まれる。

生徒の興味・関心、進路等に応じて設定した課題とは、個々の生徒が各教科・科目における学習の進展に応じて興味・関心を抱いたり、各教科・科目の学習を契機に自身の進路について具体的に考えたりする上で必要性を感じて設定した課題であり、人や社会、自然とのつながりの中で探究的な学習を深めることにより、知識や技能の深化、総合化が見込める課題のことである。これにより、学ぶことの意義を実感して高校生としての今をより充実して生きることができるようになるとともに、生涯に渡って学ぶことと生きることを結びつけて考えられるようになることが期待されている。

自己の在り方生き方や進路に関わる課題とは、人間としてどう在るべきかという問題を深く内省的に追い求めるとともに、そのような理想的、理念的な自己の在り方に関する思索を自身の進路に結びつけ、自己の生き方について現実的、实际的に検討する上で必要となる諸課題のことである。この時期の生徒は、人間としての在り方や将来の自己の生き方について理想的、理念的に深く考えることを求めているとともに、就職や進学を控え、現実的、实际的に検討することを迫られてもいる。自己の在り方生き方について、この両面から探究的に学習することは、自己の将来を力強く着実に切り開いていこうとする資質や能力及び態度の育成において、極めて重要である。

なお、参考として示した3つの課題は、互いにつながり合いかわり合っている課題であり、それぞれの学習の広がりや深まりによって、しばしば関連して現れてくるものである。

(3) 学習対象・学習事項の設定

学習対象とは、生徒が探究的に関わりを深めるひと・もの・ことを示したものであり、例示された3つの課題をさらに具体化したものである。また、学習事項とは、個々の学習対象とのかかわりを通して、生徒に「どんなことを学んでほしいか」について、さらに踏み込んで分析的に示したものである。例えば、以下の表(図4)を参考に各学校で内容を設定することが考えられる。

学習課題	学習対象	学習事項	
① 横断的・総合的な課題	国際	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観	<ul style="list-style-type: none"> 世界の国々の伝統、文化、価値観等の特徴と地球市民としての自覚 日本の伝統、文化、価値観等の特徴と日本人としての自覚 国際社会の持続可能な発展のための課題と共生に向けた取組 など
	情報	情報化の進展とそれに伴う社会経済生活や消費行動の変化	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信技術の進展による、社会経済や人々の消費行動、コミュニケーションスタイルの変化等に伴う問題状況 情報の収集・選択・発信における責任主体としての自覚 望ましい情報社会の構築に向けた情報リテラシー など
	環境	自然環境と環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境のかけがえのなさとその人類的価値 地域の自然環境の調査とそこで見出された課題 国際関係の中での、環境の保全と社会の経済的発展との構造的課題 など
	資源エネルギー	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題	<ul style="list-style-type: none"> 社会を支える資源・エネルギー活用と、その有限性や危険性、経済性との構造的課題 資源・エネルギー問題と自分たちの消費意識や行動との関わり 省資源・省エネルギーと持続可能な社会の構築のための取組 など
	福祉	高齢者の暮らしを支援する福祉の仕組みや取組	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の尊厳と自立に向けた支援における日本や諸外国の取組 わが町の高齢者福祉の現状と課題 福祉問題の解決やよりよい福祉を創造するための地域活動と参画 など
	健康	毎日の健康な生活とストレスのある社会	<ul style="list-style-type: none"> 健康の意味と人間関係や社会・自然環境との関連 社会構造の変化と健康の保持・増進をめぐる問題状況 より健康で安全な生活を送るための対策や取組 など
	食	食をめぐる問題と農水産業の流過程と従事者	<ul style="list-style-type: none"> 日本の農水産業やその従事者の現状とグローバル化による変化 食の安全保障をめぐる生産や流通の現状と自分たちの食生活との関わり 食をめぐる問題の解決とよりよい食環境の創造を目指した取組 など
	科学技術	科学技術の発展と社会経済生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展に伴う生活様式や価値観、社会構造の変化 科学技術の発展がもたらした、私たちの暮らしの中の光と影 科学技術の進展と持続可能な社会の構築との共存 など
	地域行政・司法	地域行政や司法への高校生の関わりと民主的な社会	<ul style="list-style-type: none"> 模擬裁判の実践を通して考える裁判員制度の在り方 国民の選挙への意識と行動の実態 地域に暮らす外国人の人権問題改善への取組 など
	経済・消費	グローバル社会における経済不安と消費をめぐる問題	<ul style="list-style-type: none"> グローバル社会における経済格差の現状と私たちの生活 私たちの消費行動の変化と近未来の社会 持続可能な社会のための「消費者市民社会」「脱消費社会」構築への取組 など

	安全・防災	防災のための安全な地域づくりとその取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害による被害の深刻さと広がり ・過去の災害の被害状況とその反省に基づく防災対策 ・地域社会の一員として、災害に備えた安全なまちづくりの担い手としての取組 など
② 生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題	郷土	郷土の自然や風土、歴史と文学	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の自然や風土の特徴と歴史的背景 ・郷土にまつわる文学作品や芸術作品の魅力 ・郷土への愛着と自然や風土を守ろうとする人々の取組 など
	都市計画	歴史的な景観と利便性が調和した都市計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な景観と住む人の利便性が調和した都市の姿 ・都市の変容とそこで暮らす人々の生活様式や価値観の変化 など ・都市の活性化に向けた再開発への取組 など
	地域社会	まちづくりや地域活性化に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状と地域の特徴 ・まちづくりや地域活性化への住民の取組 ・地域の担い手としての自覚や未来のまちづくりに向けた構想 など
	観光	新しい商品の開発による観光の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業や地域の産業の現状と課題 ・地域観光活性化のための地元の取組やアピール活動の実際 ・地域との協同による郷土の特産物を材料とした商品開発の可能性と販売促進への取組 など
	生命・医療	生命の尊厳と医療・看護の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の質や生命倫理等に関わる今日の課題 ・生殖補助医療や臓器移植等、最先端医療の是非と、治療を受けている人やその家族の思い ・自他の生命の尊厳を理解し守るための医療・看護の在り方と個人々の死生観 など
	共生	人の自立と多様な人々との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と自立した生き方 ・障害やトラブルを乗り越えた人々と周囲の支え ・ユニバーサルデザイン・ノーマライゼーションの考え方と共生社会に向けた取組 など
	教育・保育	社会の変容と教育・保育の転換	<ul style="list-style-type: none"> ・成熟社会における教育の在り方とその転換 ・自分たちの受けてきた教育の歴史的な位置付けや外国の現状 ・これからの社会に応じた教育や子育ての在り方への模索と取組 など
③ 自己の在り方生き方や進路にかかわる課題	人生観	物質的な豊かさと精神的な豊かさを巡る問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かさ観」の画一化がもたらす諸問題 ・自分たちの「豊かさ観」と異世代や諸外国の若者の「豊かさ観」との相違点とその要因 ・様々な年代による「人生観」とその違い など
	社会奉仕	ボランティア活動とそれに取り組む人々	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの考え方とその形成過程及び背景 ・ボランティア活動に取り組む人々の思いや願い ・ボランティア活動に対する社会的評価と活動を支援する社会的制度整備 など
	文化の創造	文化や流行の創造と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・社会や時代の変化と流行の変遷との関連 ・流行や文化に対する自分たちの意識や行動の調査 ・社会への帰属意識と自己・個性の表現との対峙 など
	職業	職業の選択と社会への貢献及び自己実現	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献や自己実現のための職業選択への模索と取組 ・自分自身の職業的将来展望を模索する取組 ・様々な仕事の関連性と課題 など
	勤労	働くことの意味や働く人の夢や願い、社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を作り、支える様々な職業や機関の機能や意義と課題 ・様々な勤労者の夢や思い ・経済的自立と働くことの意味と責任 など
	アイデンティティ	世界の中の日本・日本の中の地域・家族の中の自分等におけるアイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中の日本の役割と課題、近未来のプランニング ・世界に誇れる日本人や日本文化 ・家族の中の自分、クラスの中の自分、アイデンティティに関わる思い など

図4：学習課題・学習対象・学習事項の例

第3節 全体計画の具体例

事例①（A高等学校全体計画）

（1）学校で定めた目標

A高等学校では、学校教育目標、生徒の実態、地域・社会の実態、保護者・教職員の願い、地域・社会の要請を踏まえて、目標を次のように定めている。この目標は、学習指導要領の第1の目標と以下のように対応している。

横断的・総合的な学習や探究的な活動を通し①、自ら課題解決に取り組み②④、協同的な課題解決の学び方を身に付ける③④とともに、持続可能な社会の形成に参画するための自己の在り方生き方について考える⑤。

*①～⑤は、学習指導要領の第1の目標を構成する5つの要素

目標の記述については、上記のように一文で表す場合もあれば、次のように箇条書きで表すことも考えられる。

(例) ○探究的な学習や進路学習を通して①、自ら課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よく問題を解決する資質や能力を身に付けるとともに②、自己の在り方生き方について考える⑤。
○情報収集や情報整理の能力を身につけ③、協同的、創造的に探究活動や発表に取り組むことができる④。

*①～⑤は、学習指導要領の第1の目標を構成する5つの要素

（2）育てようとする資質や能力及び態度

生徒の実態や中学校での学習経験を踏まえ、「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」の3つの視点に即して、育てようとする資質や能力及び態度を設定している。

特に、課題の把握と分析、自己の考えの確立を重視するとともに、自己や社会の在り方の改善に向け、持続可能な社会の形成者としての当事者意識をもって、協同的に社会参画していく力を育てたい力として重視している。

なお、ここでは学年ごとに分けず、3年間を見通した資質や能力及び態度を示している。

（3）学校で定めた内容

(1)で設定した目標を実現するために、学年別に主題を設定し、第1学年では地域の在り方に関する課題、第2学年では社会の在り方と環境に関する課題、第3学年では国際社会の在り方と自分自身の在り方生き方に関する課題を内容として設定している。

学習対象や学習事項の記述にあたっては、具体的な固有名称を書き加えていない。これにより、学年やクラス、各グループや個人の具体的な学習活動を独自に考えることができるようにしている。

（4）地域・社会や生徒の実態及び各教科・科目等との関連

目標を具体的・分析的に示した「育てようとする資質や能力及び態度」ならびに、目標の実現にふさわしい学習課題を内容として設定するに当たり、地域・社会や生徒・学校の実態を重視することを大切にしている。

また、中学校で行われている総合的な学習の時間の情報を収集するとともに、生徒がそこで身に付けてきた資質や能力及び態度をもとにさらに発展した学びを展開できるよう全体計画を作成した。

特に、自分をもつ地域という概念を日本、世界へと広げて捉えるとともに、どのような社会の未来を創っていくか、そのために自分はどのような生き方をするのかという視点を重視している。

こうして明らかにした資質や能力及び態度と学習対象や学習事項などの内容を各教科・科目等と関連させながら学習活動を行うよう全体計画を構想している。

事例① A高等学校 総合的な学習の時間 全体計画

<p>＜生徒・学校の実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心や学習意欲が高く、自分の意見をもっている。 ・集団活動では周囲を意識しすぎて、ややコミュニケーションが深まりにくい場合もある。 ・生徒と教員の間の信頼関係が強い。 ・二つの学科を有し、県内広範囲からの進学者がいる。 ・中心市街地から近く、幼・小・中・高も隣接し、公共施設に恵まれた文教地区に位置する。 	<p>＜学校教育目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同・友愛の学校生活を送る。 ・真理に対する情熱をいだき、謙虚に努力精進する。 ・自主自立の精神のもと、人間としての成長と公民としての資質の陶冶に努める。 	<p>＜保護者・教職員の願い＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望する進路に向けて、充実した学校生活を送ってほしい。 ・生涯の友人との出会いと協同を大切にほしい。 ・自ら学び、考え、判断し、発信していく主体となってほしい。 ・国際的視野を持ち、社会に貢献できる豊かな人間になってほしい。
<p>＜地域・社会の実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化に支えられた地方都市で、社会的インフラにも恵まれているが、中心部の空洞化、高齢化に伴う衰退が進行している。 ・少子高齢化、経済の停滞の煽りを受け、就職内定率の低迷等、若者を取り巻く切実な問題も噴出している。 ・世界的にも、地球環境問題など、解決の難しい現代社会の諸問題が山積している。 	<p>＜【探究プロジェクト】の目標＞</p> <p>横断的・総合的な学習や探究的な活動を通し、自ら課題解決に取り組み、協同的な課題解決の学び方を身に付けるとともに、持続可能な社会の形成に参画するための自己の在り方生き方について考える。</p>	<p>＜地域・社会の要請＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、地域社会のよき担い手となるよう、地域の活性化に参画することを期待されている。 ・持続可能な社会の構築に向けて、若い世代への期待が高まっている。

＜各学校において定める内容＞			
	課題	学習対象	学習事項
<p>＜育てようとする資質・や能力及び態度＞</p> <p>学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する。 ・複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する。 ・学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとする。 	まちづくり	まちづくりや地域活性化に向けた取組	地域の人々がつながり、支え合って暮らすことの意義と課題について認識する。 まちづくりや地域活性化に取り組んでいる人々や組織とその思いを知り、地域の担い手としての自覚をもち、まちづくりや地域活性化のための活動や取組について考え参画する。
<p>自分自身</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの行為について当事者意識と責任をもって意思決定する。 ・自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践する。 	環境と防災	防災のための安全な地域づくりとその取組	過去の災害の被害状況の認識と、その反省に基づく防災意識や取組の意義。 地域社会の一員として、災害に備えた安全なまちづくり、学校づくりの担い手としての自覚と取組。
<p>他者や社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする。 ・課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画する。 	世界の中の日本	世界の中の日本の役割と課題、未来	世界の中の日本の役割と課題を認識した上で、日本の近未来社会のプランを考えとらえる。

<p>＜学習活動＞</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">1年次</td> <td>「探究への扉を開く」 「社会とつながる」</td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td>「大災害 そのとき私たちにできること」</td> </tr> <tr> <td>3次</td> <td>「興味を深く掘り下げる」 「社会問題を討論する」</td> </tr> </table>	1年次	「探究への扉を開く」 「社会とつながる」	2年次	「大災害 そのとき私たちにできること」	3次	「興味を深く掘り下げる」 「社会問題を討論する」	<p>＜指導方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の課題意識を発展し深化させる支援 ・個に応じた指導及び協同的な学習活動の充実 ・各教科・科目との関連的な指導内容の工夫 ・言語活動による体験の意味の自覚化と深化 	<p>＜学習の評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオを活用した評価の充実 ・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定 ・指導と評価の一体化の充実 ・学期末、学年末における指導計画の評価と改善 ・授業分析による学習指導の評価と授業改善 ・学校運営協議会を活用した評価の実施 	<p>＜指導体制＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会による校内の連絡調整と支援体制の確立 ・広範な学習支援者の確保と効果的運用 ・ワークショップ型研修の充実 ・校内の全教職員による相互支援体制の構築 ・実行委員会の定期的打ち合わせや情報交換の実施（週時程内の運用） ・円滑な学習活動の進行のための環境整備
1年次	「探究への扉を開く」 「社会とつながる」								
2年次	「大災害 そのとき私たちにできること」								
3次	「興味を深く掘り下げる」 「社会問題を討論する」								